

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 2 1 4 号

2020 年 2 月 1 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

小西芳之助導源『わが主イエスよ』より (14)

第 15 講 唯ひとつのこと

結論 二つの歌

30 周年の感謝の礼拝、31 回目のイースターを迎えての 4 月 15 日の恵まれた集会を持たせていただき、当教会もいよいよ第 2 の 30 年に入ってきているわけでありませう。

いよいよまた聖書講義に入るわけでございますけれども、聖書の講義に入ります前に、30 年間に学びました要点、すなわち私の 80 年の生涯に学びました結論を、今日はもう一度「唯一つのこと」と題して、繰り返して本日は申しあげたいと思います。お許しを願います。

その結論が二つの歌になっております。

聖霊の 御交わりはただ 御名を呼ぶ ことにより 神よりぞ
受く

聖霊の 御交わりはただ 御名を呼ぶ ことにより 神よりぞ
受く

もう一つの歌

聖霊の 御交わりを 受くるには 何につけても 安らかりけ
り

聖霊の 御交わりを 受くるには 何につけても 安らかりけ
り

以上、私の 80 年に学びました結論であります。以下、その説明
のようなこととなりますが、数か条にわたって説明したいと思いま
す。

Try が好き

私は「考える」ということよりも「試みる」ということが好きであります。英語で **Think** と申しますが、**Think** よりも **Try** の方が好きであります。好きというより、むしろやってみたい。

我々は謙遜の心がありませんから **Try** ができない。我々は自分が偉いと思っていますから、自分は相当分かっているとみんな思っています。そうですから、少しもやってみるといって **Try** がない。**Try** がないから進歩がない。何十年やっても、大体我々の見ている範囲の友人、我々はみなそうです。大体進歩がない。同じことをやっている。そして、しかも自分では進歩した、自分は分かっていると思っている。ここに問題がある。進歩しない。自分は分かっている。相当私は分かっていると思っている。その証拠に、安らかな心がない。平安がない。けんかばかりしている。大体人が集まったらけんかしますよ。教会と言って人は集まっていますけれど、本当にその中に平安というのはいないですよ。外側は平安らしい顔しているけれど。

私はその意味において、我々は試みることをやらなければいけないと思う。**Try**。**Think** ばかりしていて、考えて、信仰とかなんと

か言って、聖書の勉強と言って頭ばかり使っていても駄目です。

やってみなさい。為すのです。そういうことを感じます。それが一つ。

大事なものは消極的力

能力に積極と消極と二つ方面がある。人は積極的を誇りますけれども、大事なものは消極的、人間は消極的が大事です。例えば、いつも言っていますけれど「善をせよ」というよりも「悪をするな」という方が大事です。悪をしないという、その消極的力があるから善をするという力が出てくる。ああせよ、こうせよ、人を愛せよ、善行せよというよりも、「悪いことをするな」、「人に心配かけるな」、「人の心がいら立つようなことをするな」と、そういうふうに、消極という方が大事です。見えるから、人は積極的なことが好きです。消極的は見えない。見えないけれども、見えないところにその人の深さがある。本当に立派な人は、消極的だから、立派な人ということが分かりませんよ。

キリスト教は謙遜の宗教

私は宗教はキリスト教だけで、勉強しておりませんし、ちょっと浄土門の仏教をかじっておりますから、二つの宗教をかじっておりますが、その二つの宗教の私のかじっている範囲で最も大切なところは、善を成せと、人を愛せよということになしに、むしろ「安らか」「平安」という心の方が大事です。安らかな、平安な心無くして善行は出来ない。心がいら立っているようなことでは善行はできない。私はキリスト教と浄土真宗しかかじっておりませんが、頂点は、安らかな心。これについてカーライルが「キリスト教は謙遜の宗教だ」と言った。愛の宗教とは言わなかった。謙遜の心無くして本当の愛はない。おれがというようなことでは、愛というものではありません。

キリスト教は愛を行なう宗教ではない

今度は、行ないと信仰について述べます。

人々は、キリスト教は愛を行なうことである、と言われますけれど、今日司会者に読んで頂きましたルカ伝 10 章 38 節から 42 節〔マルタとマリアのたとえ〕、これは繰り返しお読み願いたい。「キリスト教は愛を行なう宗教でない」と書いてある。イエスは言うた、「キリスト教の教える唯一つのことは、愛を行なえということでない」とイエス・キリストが言った。我々はこのイエスの言葉をよくよく味わう必要がある。明らかにイエス・キリストは、愛を行なうこと、人に奉仕することはキリスト教が教えるただ一つのことではないと明言された。このイエスの発言の重大性は、強調しすぎることはできません。

行によっては、我々は落第

「行ない」「行」「愛」、同じことです。これは同じ性質であり、同じ部類に属しますが、行についてイエス・キリストに、「先生、永遠の生命を得るにはどうしたらいいか」と聞くことだ。イエスは、「汝、律法を行なえ」と言われた。行、愛を行なえと言われた。律法を行なえとイエスは言った。そうしたら、イエスは問答の所で、また問答をやっていると長くなりますが、要するにイエスは十戒を行なったら、完全に行なったら、律法を行なったら救われる、永遠の命があるということをイエスは言われた。これは事実です。そうですから、これを行なったらきっと永遠の命を得ることができるに違いがない。

しかしながら我々人間は、これを完全に行なう力がない。これは事実です。パウロは深き人生の経験から、「人類は誰一人として完全に律法を行なって、及第して永遠の命を得る人はない」ということをパウロは言った。そうですから、行によっては、我々は落第です。永遠の命を得ることができない。

贖いを信じて、永遠の生命を得る

この人間にできないことを、人間には不可能であるけれども、イエスは、神には可能だといった。そしてイエスは十字架を負うて贖いを成就して、人間には不可能であるところの救いのその行を自分が代わって十字架を負うて、そして完成して、33年の生涯において贖いを完成して人類のために贖いを成就した。そして人類はその贖いを信じて永遠の生命を得るといふ、行をもって落第の人間が信によって、その贖いを信じて及第して永遠の生命を得るといふ道が開かれた。これが福音であります。そうですから、我々は贖いを信じて、イエス・キリストの贖いを信じて、我々は永遠の生命を得る。及第になるわけであります。

内村鑑三からこの贖いを聴きまして、信じて私は救われてこの80年を過ごしてきた。私はその信仰において及第だと思っていた。そうしてこの80年を、今も及第と思っていますよ。贖いを信じて、行ないによっては落第だけれども信仰によっては及第させてもらえる、そう思っていますが、私は4年前に病気をしました時、皆さんにお世話になりました。その時に清川病院へ入院させてもらって、数カ月、8月から12カ月まで4か月入院していた間に、信仰で及第

している自分が、その信仰を検討する時間を病院で与えられて、「これでいいのか」、「この信仰で及第か」ということを思った時に、私はその信仰そのものが誠に頼りないということを発見した。

信仰を継続する唯一の方法

その頃から、「わが主イエスよ」と称える行、これはやっぱり行ですよ、しかし易い。易いですから易^{いぎょう}行、易い行を私は易行と言っておりますが、易行が目につき出した。その前後から、「主の名を呼ぶ者は救われる」というロマ書 10 章 12 節、13 節が私の心に響いてきていた。もちろん信仰を始めました頃から、30 年前から、主の名を呼ぶというこの文句には気が付いていたらしい。しかし本当に自分の心に浮かんできたのは、大体 70 の年ぐらいからです。

そしてこの易業、神から教えられた神から頂くこの行が、これが贖いの信仰継続のお方法だ、ということ最近気が付いた。この易業は、行、行ないであるのみならず、わが主イエスよ、わが主イエスよと称えることは行であるのみならず、贖いの信仰を継続する方法という事がはっきりした。分かってきた。この易業によって贖いの信仰が継続される。このあるかないかの難しい信仰を継続する、これが唯一の方法です。これが信仰継続の方法です。

私の心境 歌二つ

諸君、試みたまえ。Try。ここに、我々の生命がかかっている。謙遜になり給え。なりたまえでない、なりましょう。Let us, なりましょう。皆さん一緒になりましょう。謙遜になりましょう。我々は謙遜ではない。我々は傲慢です。そうだから進歩しない。カーライルは「キリスト教は謙遜の宗教」と言った。これは味わうべき言葉であります。

言いたいことはまだ残っておりますが、これはまたの機会に譲ります。大体私の話したいということは、不十分でありますけれども話したように思います。

最後に私の心境。初めに歌いました歌、2首、もう一度歌ってみます。

聖霊の御交わりは ただ御名を 呼ぶことにより 神よりぞ受く

聖霊の御交わりは ただ御名を 呼ぶことにより 神よりぞ受く

受ける、receive です。

聖霊の御交わりを 受くるには 何につけても 安らかりけれ

聖霊の御交わりを 受くるには 何につけても 安らかりけれ

主の名によって感謝し奉る。アーメン